

新緑随想

私はWAVE出版から「ビッグツリー」私は仕事も家族も決してあきらめない」という本を出しましたが、それは次のような書き出しで始まります。

「神様は私に試練を与えたというか、ちよつといたずらをされたようだ。私の長男は自閉症という障害を持って生まれ小さい頃から手がかり、私は幾度となく学校へ行かなければならなかった。また私の妻は肝硬変のため何度も入院を余儀なくされ、そのため妻としての役目を果たしていな

いという自分への責めや障害の長男のことなどが原因で、うつ病を併発してしまい入院は四十回を超え三度の自殺未遂まで引き起こしてしまつた。」

今から二十年ほど前、最初に妻が三年ほど入院したとき、子供たちは中学二年、小学六年、五年でした。ふだんの日

は毎朝五時半に起き三人分の子供の朝食と弁当を作り、八時前には出社し、効率的に業務を遂行しました。夕方六時に会社を出て七時に帰宅、急いで夕食を作ると

いう毎日。土曜日は病院に妻の見舞いに行き、日曜日は一週間分の洗濯、掃除、買い物をする生活でした。

このときは自分なりに工夫して、この苦境を乗り切りましたが、それから十年ほどたつて妻が肝硬変とうつ病を併

の自殺は本来なら亡くなつてるところでした。たまたま娘が見つけ救急車で運ばれ七時間の手術で助かったのです。当時、私は経営企画室長としていわば会社のトップマネジメントのスタッフとして多忙を極めていましたので、妻

自閉症の子と

うつ病の妻の

心と命を守つて



現東レ経営研究所特別顧問

佐々木 常夫

(昭和38年卒)

発した時期が私にとつては一番辛い時でした。

年数回の入院となり、このころは一年のうち半分は病院生活でした。妻と自閉症の長男の世話に多くの時間を割く日々が七年ほど続きました。

さらにうつ病がひどくなつて、三度も自殺未遂事件を起こしてしまいましたが、最後

の愁訴に十分応えることができませんでした。

厳しい試練のような生活でしたが「決して負けるまい、決してあきらめない、きつといつかは良い日が来る」といつも思い改め、毎日を過ごしてきました。

その妻も二〇〇三年になつてようやく回復の兆しが見え

てきました。

この年は私が東レ経営研究所の社長になった年で、私は会社のトップなので自分のやり方で仕事をコントロールできましたし、妻のための時間とれるようになったことが、彼女を安心させ長い苦しみから抜け出させることができたようです。

私が自分の家族のことをオープンにしたら身近でなんと多くの人たちが「実は私の家族も」と打ち明けてくれたことでしょうか。

この世の中は重荷を背負つた人は案外多いのです。

身体障害、うつ病、自閉症、認知症、引きこもり不登校、アルコール依存症など多くの人がハンディを持っているのが現実です。

よしもとばななさんは私の本を読んで「佐々木さんにとつては愛とはひたすら責任をとることであつた」と自分のブログに書いていました。そういう見方もあるのかなと思

いましたが、妻も私も自分で選び自分が生んだものです、それを守るのは人として当たり前のことだと思ひます。

人は誰でもが家族や仕事にに対し責任を果たしたいと思つていますが、全力で頑張つて

もなかなか満足するような結果に繋がらないことが多いのです。

妻はたまたま娘に見つけれ助かりましたが、少し間違えれば我が家は家族崩壊の道にたどつていたことでしょう。

さまざまなる人の支援や家族の助け合い、そしていろいろな偶然で図らずも私の家族はなんとか再生しつづつあります。私は人生というものに自分自身以外の大きな力を感じています。

柏木 齒科

院長 柏木 喜広 (昭和42年卒)

副院長 柏木 了 (平成8年卒)

秋田市広面土手下41-1
TEL 018-832-9162

本と楽器 今村 書店

学習塾ニッケンアカデミー五城目教室
今村書店音楽教室

今村 房蔵 (昭和14年卒)

今村 三子雄 (昭和41年卒)

今村 多恵子 (昭和42年卒)

今村 和佳奈 (平成8年卒)

南秋田郡五城目町字上町67
018-852-2303